

多根脳神経リハビリテーション病院

2024 年度年報

目 次

病院概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
診療部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
看護部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
リハビリテーション科・・・・・・・・・・・・・・・・	5
放射線科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
医療生活相談室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
薬 局・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
栄養科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
事務部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
資格一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
学会発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13

〒552-0011 大阪市港区南市岡 1-1-45

TEL：06-6585-2743（代表） FAX：06-6585-2048

交 通：

電 車

JR 環状線大正駅または大阪メトロ長堀鶴見緑地線大正駅下車徒歩 10 分

阪神なんば線ドーム前駅下車徒歩 8 分

大阪シティバス

なんば駅前(60)天保山行、境川下車すぐ

大阪駅前(88)天保山行、境川下車すぐ

淀屋橋駅前(107)弁天町バスターミナル行、境川下車すぐ



【病院概要】

院長	青池 太志
開設日	2001 年（平成 13 年）6 月
病床数	50 床
標榜科目	脳神経内科・リハビリテーション科・精神科・心療内科・放射線科
土地・建物（㎡）	敷地面積 1,578.43 ㎡ 延床面積 3,133.63 ㎡
基準関係	回復期リハビリテーション病棟入院料 1/脳血管疾患等リハビリテーション料(1)/連動器リハビリテーション料(1)/外来リハビリテーション診療料

（2025 年 3 月現在）

当院は回復期病院であり、急性期加療を受けた後の患者様のリハビリテーションを担っています。対象となる疾患は、脳卒中、脊髄損傷、骨折、変形性関節症の手術後などです。病院名に「脳神経」とあるように、脳卒中などの脳神経系疾患の患者様が多く入院しています(80%程度)。

当院は、基本的な人員(医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、栄養士)のみならず、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医、脳神経内科専門医、脳神経外科専門医、リハビリテーション認定看護師、呼吸療法認定士、社会福祉士などの有資格者を揃え、各専門職は標準以上の能力を備えていると自負しています。また、当院を退院した患者様のアフターケアとして、必要に応じて、外来や訪問でのリハビリテーションを実施できる体制を整えています。「病院」としての機能は弱い面がありますが、多根総合病院との連携により、患者様の病状に合わせた対応が可能になっています。傑出した特徴があるわけではありませんが、保険診療の範囲で可能な方法は実施できますので、少なくとも「標準的なリハビリテーション病院」とは言えるでしょう。

今後の高齢化社会では、リハビリテーションの必要性はますます高まると予想されます。当院も、「ヒト」と「モノ」の向上をはかり、「地域包括ケアシステム」の一翼を担うことができるように、病棟内外の機能を高めていきたいと思います。

◆診療部

【部署概要】

当院の特徴は、回復期リハビリテーション（リハビリ）病棟を有し、脳卒中などの脳神経系疾患や大腿骨頸部骨折などの運動器疾患を対象としている。当院の医師の基本的な業務は、患者さんの身体および精神状態を適切に管理し、集中的なリハビリを可能とし、その効果を期待できる状態を維持することにある。さらに、各部署と連携し、リハビリの目標設定、入院期間の調整、退院経路の設定、退院後の環境調整などの治療および療養計画を提示し、患者さんのFIM（機能的自立度評価法）利得や自宅退院率の向上を目指している。

また、診療以外に、医療安全対策、感染対策、防災対策、臨床研究指導（倫理委員会）も行っている。

【診療・部署体制】

当院に入院する患者さんは、多根総合病院の脳神経内科、脳神経外科、整形外科からの転院が主体となっている。他院からの入院については、地域性や専門性を考慮して対応している。常勤医師は3名と少数ではあるが、病棟業務に加え、外来リハビリや訪問リハビリなど病棟外業務も行っている。各医師は、専門性を生かして基礎疾患の治療を行いながら、多職種（医師、看護師、療法士、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士）とのカンファレンスを通じて最適リハビリ提供を目指している。

【特色・トピックス】

当院の特色は、休日・祝日も含めて休みなく毎日リハビリを提供しているところにある。目標課題として、先進的なリハビリ医療（リハビリロボット、機能的電気刺激など）の導入、外来リハビリや訪問リハビリの拡充、適応疾患の拡大が挙げられる。

【診療・部署実績】

当院の診療上の主な目標は、入院患者の日常生活動作レベルの改善と自宅への退院にある。当院の入院患者数や外来患者数、病床利用率、リハビリ実績指数、在宅復帰率など各種指数は、他部門（看護部、事務部、リハビリ科）の報告に記載されている。経営上の目標でもある、「リハビリ病棟入院基本料Ⅰ」に必要な構造指標、過程指標（人員、病棟、リハビリ提供量）と成果指標（入院時重症患者比率、入院時重症患者の回復率、在宅復帰率、リハビリ実績指数）を満たした。

◆看護部

【部署概要】

回復期リハビリテーション病院では、入院患者に対して患者の残された能力を最大限に活かし、日常生活の援助を通してADLの改善と患者に適した環境への社会復帰を目指している。看護師は、入院中の患者の原疾患の再発予防や合併症の予防管理、慢性疾患のコントロールへの支援を行うと同時に退院後も患者自身、もしくは援助者のサポートのもと疾患をコントロールしていくため必要な情報提供や生活指導を行っている。

また「できる」ことを増やして生活の質を上げるための看護師チーム活動を通して他職種と協働し退院支援を行っている。患者が「どこで」「どのように」「なにを大事に生活したいか」という患者の思いを軸に多職種と解決すべき問題点、目標を共有し退院への関りをしていくことを目的に多職種退院支援カンファレンスを行っている。

【診療・部署体制】

看護体制

看護部・病棟の2部門

病床数：50床・2フロア 1看護単位

病棟看護体制：固定チーム受け持ち制、一部機能別

変則交替勤務：長日勤、2交替制

夜勤勤務員数：看護師 3 名、看護補助者 1 名
施設基準：看護師 13：1 看護補助者 30：1
回復期リハビリテーション病棟入院基本料 1

【特色・トピックス】

1.2024 年度看護部目標

- * 病床利用率を維持しつつ、回復期リハビリテーション病棟入院基本料 1 を維持する
- * 患者の機能回復と社会復帰を目指し、各部署とのタスクシフト・シェアを推進する
- * KHS における回復期リハビリテーション病院としての役割を果たし、患者にとっての安全で満足できる入院生活を担保する
- * 大阪市西部地区における「きつこう会」の役割を理解し、リハビリ病院看護師としての役割達成のための知識技術の習得を怠らない

2.看護師チーム活動すべてにセラピストが参加する

3.大阪医療看護専門学校学生実習受け入れ

4.医療安全管理加算 2 取得開始

5.看護補助者業務の整理（退院後ベッド清掃の業者への委託、食器洗浄の効率化）を行い、看護補助者による直接的患者ケア時間の増加

6.看護師勤務体制の変更に伴う時間外時間の減少

【診療・部署実績】

1.チーム活動報告

- 1) 褥瘡・スキンテアチーム…スキンテア予防のためのフットレストカバーの作成・使用を開始しスキンテア発生は減少した。今後も予防行動の徹底を図っていく。褥瘡発生も 0 を目指す。
- 2) 転倒転落予防チーム…患者の状況に応じた転倒転落予防対策ができるように全員の情報共有をするためのツールの活用を開始したが、十分浸透しなかった。ツールが確認できない原因分析・対策を考える。インシデント 0 の提出をふやし、対策を考え事故を未然に防いでいく。今後も療養環境の安全対策をしていく。
- 3) 退院支援チーム…毎朝多職種で退院支援カンファレンスを行っているが、職員の意識の中での達成感は低い。患者の想いに寄り添った計画を立て、今後も有意義なカンファレンスの継続に繋げていく。家族指導パンフレットは作成済み。活用していく。
- 4) 感染対策委員会…継続して日常の感染予防への啓蒙をしていく。
- 5) 認知症ケアチーム…マニュアル作成し加算取得は定着してきた。今後「抑制解除」を視野に入れた活動をしていく。
- 6) 排尿自立支援チーム…排尿自立に向けた関りをセラピストと共に進めていく。
- 7) 摂食嚥下障害認定看護師を中心に、早期の介入を図っていった。KT バランスチャートの周知ができたので活用をすすめ、食事動作の自立を目指していく。セラピストの吸引手技獲得を今年度も継続して実施していく。

【年間診療報酬上データ】

項目	数値	項目	数値
入院患者数	251 人	新入院重症率	43%
退院患者数	255 人	日常生活改善率	67%
平均入院患者数	45 人	FIM 実績指数	46.2
平均病床稼働率	91.00%	多職種退院支援カンファレンス件数	224 件
平均在院日数	63.6 日		

在宅復帰率	88%
-------	-----

【診療科別患者動向】

診療科	入院 (人)	発症から入院まで	平均在院日数	退院 (人)
脳神経内科	156	21.9 日	66.9 日	155
脳神経外科	57	31.8 日	67.7 日	60
整形外科	38	19.6 日	45.4 日	40
合計/平均	251	23.9 日	63.6 日	255

【医療安全データ】

褥瘡院内発生率	0.4% (-0.7%)
スキンテア発生率	0% (-2.6%)
インシデント報告件数 (全数)	417 件
インシデントレベル その他	49 件
インシデントレベル 0	210 件
インシデントレベル 1	107 件
インシデントレベル II	36 件
インシデントレベル IIIa	14 件
インシデントレベル III b	1 件
転倒転落インシデント報告 (再掲)	154 件 (37%)

◆リハビリテーション科

【部署概要】

急性期治療の後、回復期において、医師の指示のもとセラピーを集中的に実施する事が当科の役割です。対象となる患者さんは、回復期病棟の適応疾患である脳血管疾患等の神経系疾患、下肢骨折等の運動器疾患の患者さんが中心です。業務内容は、患者さんの基本動作、日常生活活動 (ADL)、コミュニケーション、摂食・嚥下機能等の改善を図るセラピーを実施することです。医師を中心とした多職種カンファレンスで計画された目標に向かって、それぞれの患者さんに応じた柔軟な対応を心がけています。

【診療・部署体制】

当科では、医学的リハビリテーションの専門分野である理学療法、作業療法、言語聴覚療法を実施しています。それぞれ、理学療法士 (PT)、作業療法士 (OT)、言語聴覚士 (ST) が実施します。これら三部門が、回復期リハビリテーションの大きな目的の一つである在宅復帰・社会復帰に向けて、それぞれの技能を駆使しつつ、医師、看護師、MSW、薬剤師、栄養士、他と協力しながら、効果的なチームアプローチを実践しています。退院後のアフターフォローとしては、外来リハビリテーション及び、訪問リハビリテーションを実施し、安心してご自宅で生活できるようにつとめています。

【特色・トピックス】

- ・回復期治療が必要な患者さんに対して、各部門の専門性を最大限に発揮した治療業務
- ・回復期病棟アウトカム評価で最上位の成果基準の達成
- ・合同カンファレンスへの参加・準備進行
- ・K H S リハビリテーション部としての関連施設との連携
- ・臨床実習生の受け入れ (大阪行岡医療大学、森之宮医療大学、甲南女子大学、大阪保健医療大学、関西医療大学、阪

【診療・部署実績】

2024年度理学療法(PT)実施患者件数				2024年度作業療法(OT)実施患者件数			
	入院	外来	合計		入院	外来	合計
4月	1,353	36	1,389	4月	1,031	28	1,059
5月	1,444	32	1,476	5月	1,148	24	1,172
6月	1,370	43	1,413	6月	1,100	28	1,128
7月	1,382	73	1,455	7月	1,179	23	1,202
8月	1,471	41	1,512	8月	1,263	18	1,281
9月	1,345	43	1,388	9月	1,195	19	1,214
10月	1,337	46	1,383	10月	1,153	18	1,171
11月	1,258	46	1,304	11月	1,025	22	1,047
12月	1,320	48	1,368	12月	1,058	21	1,079
1月	1,316	41	1,357	1月	1,087	17	1,104
2月	1,284	44	1,328	2月	1,015	28	1,043
3月	1,420	56	1,476	3月	1,166	33	1,199
合計	16,300	549	16,849	合計	13,420	279	13,699

2024年度言語聴覚療法(ST)実施患者件数			
	入院	外来	合計
4月	990	21	1,011
5月	1,037	25	1,062
6月	946	33	979
7月	1,027	34	1,061
8月	1,015	30	1,045
9月	982	27	1,009
10月	1,010	30	1,040
11月	913	38	951
12月	908	35	943
1月	908	30	938
2月	848	35	883
3月	937	38	975
合計	11,521	376	11,897

◆放射線科

【部署概要】

患者様に対し安全かつ丁寧な対応を行い、効率的な仕事運びを目指す
患者誤認防止に努める
医療機器の保守管理を徹底する

【診療・部署体制】

東芝製 X 線発生装置（現：キャノン）を 1 台設置しており、FCR システムにて画像の提供を行っている。
撮影業務は週 3 日で、月曜日・水曜日・金曜日に対応している。それ以外の曜日は必要に応じて撮影を行っている。
専属の技師が 1 人在籍しており撮影を行っているが、総合病院の技師も撮影の対応を行っている。
一般撮影以外の CT 検査、MRI 検査は、総合病院と連携をとっており、総合病院放射線科に検査を委託している。

【特色・トピックス】

リハビリテーション科及び脳神経内科、整形外科より依頼を受け、一般撮影業務を行う。主に入院中の患者様の胸部・腹部・骨撮影を行っている。
撮影した画像は総合病院と連携しており、総合病院の画像サーバーに保管される。電子カルテも同様に総合病院と連携しているので、画像は電子カルテより見ることができる。
他医からの画像 CD データの取り込みを総合病院放射線科に依頼し、CD の画像データをサーバーに保存している。
年 1 回、「診療用放射線の安全利用のための研修」を e-learning にて実施している。
2023 年 12 月に X 線発生装置を更新した。（KX0-50SS：キャノン製）

【診療・部署実績】

2023年度実績 検査件数及び実日数（2023年4月～2024年3月）

	検査件数	実日数		検査件数	実日数
4月	14件	10日	10月	3件	3日
5月	12件	7日	11月	7件	4日
6月	16件	9日	12月	3件	2日
7月	10件	6日	1月	6件	5日
8月	4件	3日	2月	15件	9日
9月	5件	5日	3月	9件	7日

◆医療生活相談室

【部署概要】

全入院患者ひとりひとりに担当者が付き、入院時から患者・家族と継続的な関係を構築し、必要に応じて援助出来る体制を整えている。系列・他病院からの入院相談を経て退院後の生活の再構築に至るまで一連の退院支援を行っている。

【診療・部署体制】

社会福祉士 2 名。入院患者は全担当制、相談専門職として関わっている。

【特色・トピックス】

入院相談(系列、他病院)
 入院時インテーク(初回)面談
 経済問題援助
 転院相談(療養型病院、介護老健保健施設など)
 転居相談(引越し、特別養護老人ホーム、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅への入居)
 退院援助(他機関との連携、退院前カンファレンスや家屋調査の調整)
 独居患者の諸対応(必要時居宅訪問、生活必需品の準備、金銭管理の補助)
 リハビリカンファレンス参加
 外来患者対応
 病棟ミーティング、退院支援カンファレンスへの参加
 ベッドコントロール会議への参加

【診療・部署実績】

本年度は毎日朝の時間を用いて 1 人の患者に対し、各担当者が集い退院支援カンファレンスを継続的に行った。現状と今後の見込みを確認でき、インテーク内容を初期に共有できる有効的な機会であった。そのことで、院外との連絡や本人・家族と面談する際に、具体的な情報提供や、時期に応じた声掛けにも繋がったと思う。

令和 6 年度の相談室の対応件数について報告する。

退院先は自宅退院が最も多く 164 件。

治療目的で多根総合病院への転院が 39 件。

老健への入所が 19 件、そのうちてんぼ一ざんへ 5 件。

療養型病院への転院が 6 件、そのうち多根第二病院へ 5 件。

特養への入所が 4 件、特養ショートステイでの受け入れは 4 件。

有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅などへの転居が 15 件だった。

その他、グループホーム、ケアハウス、救護施設への入居調整も行った。

系列の居宅介護支援事業所へ 15 件紹介し、当院の外来リハビリで 9 件受け入れがあった。

他院からの転院相談は 95 件あり、25 件を受け入れ方向で調整。調整中に他院への転院が決まるなどでキャンセルとなり、実際の受け入れは 14 件(うち総合病院経由 1 件)だった。

令和 6 年度脳神経リハビリテーション病院 医療生活相談室 援助内容実績

(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日に退院された患者・複数回入院している場合は最終退院時に計上)

	脳神経内科	脳神経外科	整形外科	他院	合計
インテーク	133	46	32	14	225
在宅復帰	93	30	30	9	162
転居	20	5	2	3	30
転院入所	13	11	1	2	27
経済問題	10	1	0	0	11
受診調整	6	5	1	4	16
外出同行	3	2	2	1	8
自宅訪問	7	7	2	0	16
退院カンファ	32	11	11	4	58
他機関連携	93	35	25	13	166
介護保険	121	42	30	14	207
障害福祉	5	4	0	1	10

◆薬 局

【部署概要】

- ・病院内使用薬剤管理全般（院内処方、持参薬、常備薬）について安全で効果的な使用が出来るよう業務を行っている
- ・服薬指導では、自宅へ帰った際に適切に自己服薬管理が出来るよう指導を行っている
- ・医療チーム参加と医薬品の安全管理部門として病棟業務を行い、適切な薬物治療が行えるよう関わっていく
- ・院内ネットワークを通じて安全性情報、薬剤情報の公開・情報共有を行っている
- ・コンピュータスキルを生かし、電子カルテシステム・院内ホームページの管理等を行っている
- ・処方の代行修正を行っている
- ・法人4病院で協力して薬学生実務実習を行っている

【診療・部署体制】

- ・薬剤供給
医薬品情報を加味した安全かつ安定的な医薬品供給を提供する。薬剤購入費の圧縮・廃棄薬剤の削減を目指す
- ・調剤業務
自動錠剤分包機等を使用し持参薬管理を含め、院内調剤の一包化を実施している
- ・服薬指導
服薬指導の充実をもって患者満足度の向上を図る。使用薬剤の全般的な管理と電子カルテ情報の有効な使用をめざし、使用手順を確立していく。退院時の薬局サマリー付与を行う。
- ・投薬管理
副作用発現チェック体制・ハイリスク薬管理体制の強化を行う。ポリファーマシー解消を推進し、薬剤総合評価調整加算の取得を行う。
- ・業 務
薬局アクシデント件数を0にするべく業務改善をおこなう。
- ・情報管理
医療安全の推進・院内感染防止・褥瘡対策について、情報共有・伝達を推進する。（各2回／年）
- ・実習生の受け入れ
病院実務実習を通して、薬剤師の確保と指導薬剤師のレベルアップを目的とし、実習受け入れ業務を整備する。
- ・電子カルテ運用
電子カルテシステムの効率的な使用が出来るよう、補助システムの構築を行う。
処方代行入力を行い医師の診療補助を行う。

【特色・トピックス】

- ・調剤業務：入院内服処方箋枚数 460.1 枚/月
- ・注射業務：入院患者処方箋枚数 29.8 枚/月
- ・後発品置き換え率：91.3%（2024/4月～2025/3月）
- ・服薬指導：「薬のしおり」「お薬手帳」の活用、持参薬管理、退院時薬剤管理サマリイの発行
- ・感染対策：感染レポート作成、抗菌薬使用届管理
- ・病棟業務：配薬カート使用・お薬カレンダー使用推奨・段階的自己管理
持参薬管理（薬局にて管理し、7日分ずつ投薬）
薬剤総合評価調整加算 8件
- ・医療安全：「医薬品・医療機器等安全性情報」「PMDA 安全性情報」「医療事故情報収集事業 医療安全情報」の院内伝達・情報共有 「医薬品・医療機器等安全性情報」No.409～417「PMDA 安全性情報」No.69～71
「医療事故情報収集事業 医療安全情報」No.209～220
- ・医療安全講習会（薬局主催）

【診療・部署実績】

処方箋枚数・調剤件数						
	入院内服処方箋			入院注射	外来注射	外来処方箋
	枚数	件数	剤数	枚数	枚数	枚数
2024年4月	497	1373	1626	20	5	22
5月	475	1502	1867	10	4	18
6月	431	1253	1514	12	3	16
7月	522	1487	1722	38	5	22
8月	484	1457	1720	13	7	20
9月	446	1382	1616	31	3	22
10月	423	1459	1725	41	4	17
11月	447	1274	1481	31	3	16
12月	479	1355	1642	37	4	43
2025年1月	453	1343	1581	68	3	24
2月	407	1157	1342	34	3	13
3月	457	1219	1426	23	3	19
合計	5521	16261	19262	358	47	252
月平均	460.1	1355.1	1605.2	29.8	3.9	21.0

薬剤管理指導				
	服薬指導人数	服薬指導件数	カンファレンス記録	代行修正
2024年4月	63	45	64	15
5月	64	39	66	6
6月	61	41	57	8
7月	62	45	68	14
8月	56	47	56	14
9月	61	42	63	20
10月	64	36	71	17
11月	52	32	50	15
12月	61	36	65	19
2025年1月	59	35	64	17
2月	59	27	59	20
3月	59	47	50	11
合計	721	472	733	176
月平均	60.1	39.3	61.1	14.7

◆栄養科

【部署概要】

回復期の栄養管理を目的として、入院から退院まで各個人の活動量や病状に配慮した適切な食事提供に努めている。
また、嚥下機能に応じた食形態の選択や片麻痺に対応した食具の選択など多職種と連携して患者様をサポートすると共に、シームレスな栄養管理ができるよう退院前に栄養指導や退院先施設への情報提供を行っている。

【診療・部署体制】

管理栄養士 1 名

* 給食業務は日清医療食品に委託（栄養士 1 名、調理師 2 名、調理員 4 名）

【特色・トピックス】

- ・ 6 月～ 栄養状態の評価に GLIM 基準を導入
栄養情報連携料の算定開始
- ・ 業務改善・効率化《MCT オイル添加粥の導入(品数を増やさずカロリーup)、ゲル化剤の入替え(3 種→1 種に集約)、備蓄食の入替え(アルファ化米→調理不要なそのままご飯に切替え)》

【診療・部署実績】

《月別食事提供数》					《行事食》	
	一般食	特別食	経管栄養	総食数		
4月	3,216	767	122	4,105	4月	菜の花・海老ちらし
5月	3,450	845	90	4,385	5月	五目ちらし
6月	3,409	633	72	4,114	6月	助六
7月	2,956	1,086	114	4,156	7月	七夕そうめん うな重
8月	2,951	1,141	259	4,351	8月	穴子ちらし
9月	2,694	989	334	4,017	9月	海鮮ちらし
10月	2,483	1,089	405	3,977	10月	栗ご飯
11月	2,453	959	320	3,732	12月	クリスマスケーキ 年越しそば
12月	2,714	1,015	226	3,955	1月	お節料理
1月	2,849	836	271	3,956	2月	恵方巻き
2月	3,077	553	196	3,826	3月	ちらし寿司
3月	3,540	561	153	4,254		

◆事務部

【部署概要】

事務部医事課は、窓口業務、請求業務、収支・未収金管理、予算立案などの事務部門及び設備管理、防火・防災管理、業務委託管理などの施設部門を担当している。

施設基準の正確な把握、適正な維持、診療報酬、介護報酬をより理解し、正確で迅速な請求業務を行い、請求漏れのないように注意している。

【診療・部署体制】

主な業務

外来入院業務(受付・会計・コンピューター入力・レセプト業務・請求書作成・電話交換業務)

訪問リハビリ業務(指示書依頼・レセプト業務・請求書作成)

各種委員会開催、立入検査対策、施設基準遵守、各部署と連絡調整、苦情処理、

消防訓練対応、予算立案達成、法人内施設との連絡調整、院内各部署との連絡調整、

設備管理(院内掲示物・防災センターと協力して設備機器の管理等)

【特色・トピックス】

防災計画に基づき、消防訓練を年2回実施済み。

【資格一覧】

施 設：	多根脳神経リハビリテーション病院	部 署：診療部
役職・氏名	資 格	
院長・青池太志 (2023.01～)	リハビリテーション科専門医、脳神経内科専門医	
副院長・柳川伸子	脳神経外科専門医	
顧問・奥田佳延	リハビリテーション科専門医、脳神経内科専門医	
(非常勤) 片田珠美	精神保健指定医	

施 設：	多根脳神経リハビリテーション病院	部 署：看護部
人 数	資 格	
1 名	一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会認定回復期リハビリテーション看護師	
1 名	3 学会合同呼吸療法認定士	
2 名	医療安全管理者	
1 名	摂食・嚥下障害看護認定看護師/特定行為に係る看護師	
1 名	下部尿路機能障害の治療とケア研修会	

施 設：	多根脳神経リハビリテーション病院	部 署：リハビリテーション科
人 数	資 格	
1 名	回復期セラピストマネージャー	
2 名	3 学会合同呼吸認定療法士	
2 名	福祉住環境コーディネーター 2 級	
1 名	LSVT BIG	
1 名	LSVT LOUD	

施 設：	多根脳神経リハビリテーション病院	部 署：薬 局
人 数	資 格	
1 名	実務実習指導薬剤師	
1 名	研修認定薬剤師	
1 名	老年薬学認定薬剤師	
1 名	介護支援専門員	
1 名	初級システムアドミニストレーター	

施 設：	多根脳神経リハビリテーション病院	部 署：栄養科
人 数	資 格	
1 名	病態栄養専門管理栄養士	

施 設：	多根脳神経リハビリテーション病院	部 署：医療生活相談室
人 数	資 格	
1 名	介護支援専門員	

【学会発表】

【学会発表】		施 設：	多根脳神経リハビリテーション病院	部 署：	リハビリテーション科
会 名 称	回復期リハビリテーション病棟協会 第 45 回 研究大会 in 札幌				
発表テーマ	回復期病棟へ入院した片麻痺患者の退院時立位保持能力が FIM における歩行及び運動項目に及ぼす影響について				
日 時	2025. 2. 21	発 表 者		宮 脇 智	
場 所	札幌コンベンションセンター				

社会医療法人きつこう会